

# 白市 まちなみ 探訪マップ

## ①伊原惣十郎家



明治期の特徴を持つ豪壮なつくりで、町家の大型化をよく示した貴重な事例である。かつては裏手の小高い場所に炉を設け、家業として鋳物製造業を営んでいた。

## ②養国寺



もとは真言宗の寺院で、元暦年間(1184～)創建といわれている。天正年間(1673)に浄土真宗白龍山・養国寺と称し、現在に至る。本堂、鐘楼門ともに江戸時代の建物。本堂の廊下には、近郷には例をみない浮き彫りの鴨居がある。

## ③水原家 国指定重要文化財



江戸時代はじめに建てられた商家。鬼瓦に「寛文5年(1665)」の文字が刻まれている。瀬戸内沿岸地域でも特に古い建物として、国の重要文化財に指定されている。

## ④舂木家



明治後期の建物。敷地が道路に面して横長で、奥行きが制限されるため、農家型の面影を残した町家型の配置となっている。真壁の壁面はシンプルなつくりだが、2階には袖壁がついている。

## ⑦伊原八郎家



大正4年(1915)から2年かけて建設された。棟には燹瓦、鯨など、豪華な装飾があり、玄関部分の梁、かえる股、繁格子窓も華麗なつくりになっている。特に「御成門」は圧巻。

## ⑧勝田家

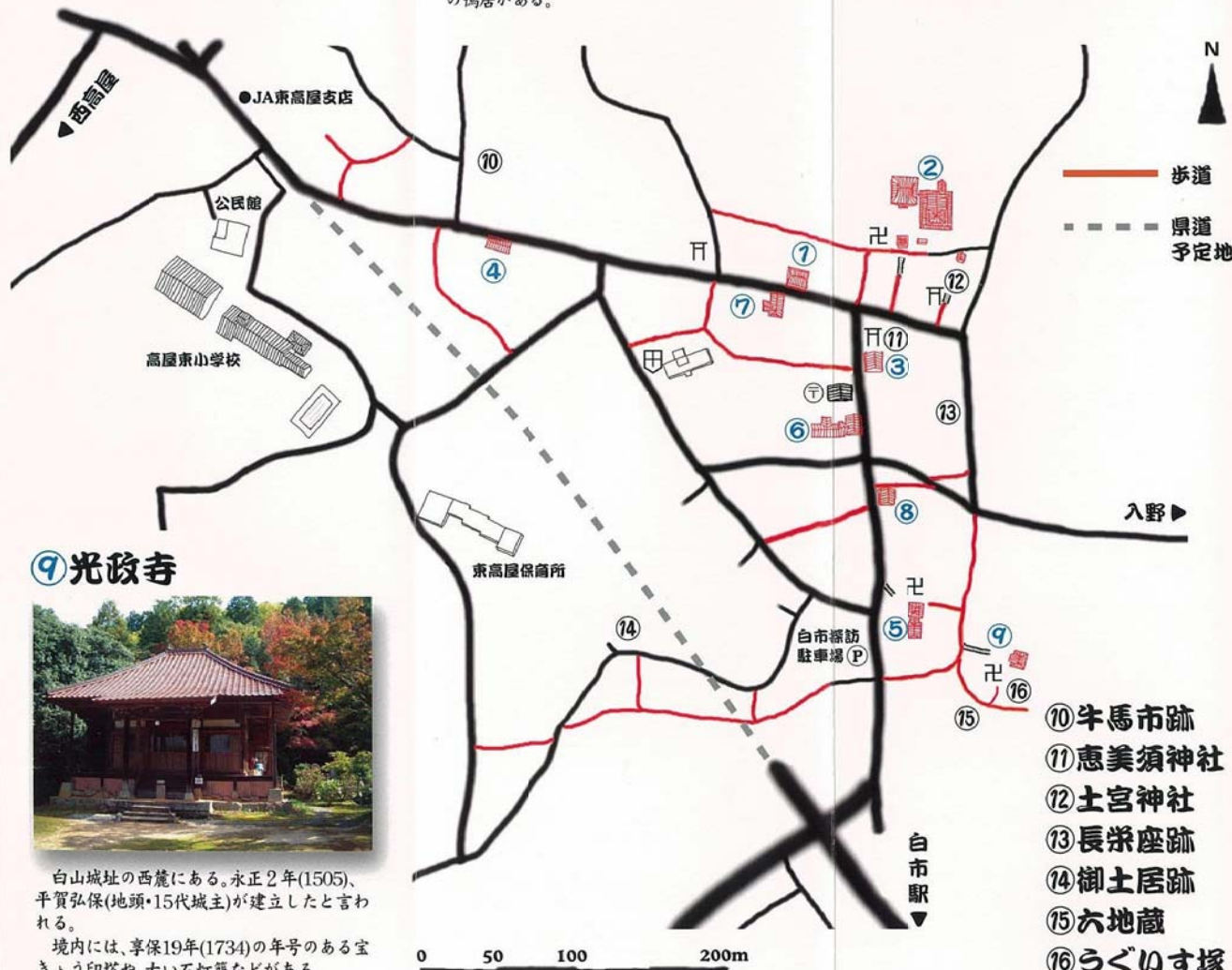


江戸後期から末期の建物と考えられ、白市のなかでは旧水原家に次いで古い。醤油の醸造を家業として営んでいたため、土間の奥に蔵がある。蔵と主屋の間につけられた屋根は、かつては防火用として簡単な操作で落とせるように工夫されていた。

## ⑨光政寺



白山城址の西麓にある。永正2年(1505)、平賀弘保(地頭・15代城主)が建立したと言われる。境内には、享保19年(1734)の年号のある宝きょう印塔や、古い石灯籠などがある。



## ⑤西福寺



安芸国賀茂郡溝口村にあった大福寺(1100年代創建)を、天正12年(1585)、時の住僧・西蓮法師が現在地に移転させた。その名の一字を冠して西福寺と称した。境内には、江戸時代の年号が刻まれた石灯籠などがある。

## ⑥重満家



江戸末期から明治初期の建物。酒造業を家業として営んでいた。そのため、表にある跳ね上げの大手から、かつて敷地の後方にあった酒蔵に通じる土間は、三和土(たたき)になっており、運搬用の馬車の車輪にあわせて敷石が埋め込まれている。

- ⑩半馬市跡
- ⑪恵美須神社
- ⑫土宮神社
- ⑬長栄座跡
- ⑭樹土居跡
- ⑮穴地藏
- ⑯ろぐりす塚